

18歳以上の方の予防接種

医師、鍼灸師 日暮浩実

今回は18歳以上の方を対象とした予防接種のお話をいたします。シンガポール保健省は、先ごろ、18歳以上の方が受けるべき予防接種の一覧“NAIS, National Adult Immunisation Schedule”のプレスリリースを行いました。これは、昨年の終わりごろから運用が始まっていたもので、費用に関してはシンガポール国民、永住権保持者ならば医療施設によってはMedisaveが使えるのですが、外国人は基本的に自費となります。

こうした制度が作られた背景には、シンガポールでも急速に人口が高齢化しつつあり、これに伴い、医療費の増大、集団として免疫力の低下などが予想されることから、予防できるものは予防しておこうという考えがあるのではないかと思います。ちなみに、現在のシンガポールの65歳以上人口率はまだ12%ほどですが、2030年までには倍増し、25%になると予想されています。

日本でも、日本プライマリ・ケア連合学会からくおとなのワクチンスケジュールが発表されています。内容は日本に合わせていますので当地のものとは少し異なりますが、参考にしていただけたらと思います。(こどもとおとなのワクチンサイト<https://www.vaccine4all.jp/>)

以下にシンガポール政府が勧める18歳以上の方を対象としたワクチンのリストを示します。政府の視点から見た感染症対策ですので、集団への感染の広まりの危険が高いもの、高齢者の死因として多い肺炎を予防するものが挙げられています。

1. インフルエンザ 年1回以上

特に勧められる方々: ①65歳以上の人、②長期間アスピリンを服用している方、③慢性疾患のある方(糖尿病、喘息、心臓病など)、④免疫不全者、⑤中期、長期のケアサービスが必要となっている方、⑥妊娠している方(妊娠中はいつでも)

*以上の方々の他、特別な禁忌がない限り、ご希望の方にはどなたでも接種が可能です。今年4月、本誌でお伝えしましたが、当院の統計ではシンガポールにはインフルエンザの流行のピークが年に2回(1、2月頃と6、7月頃)あります。これについては、当地の伝染病研究所を併設するTan Tock Seng病院の先生も同様の内容を学会発表していましたので、当院だけに見られる現象ではないようです。インフルエンザウイルスは次の流行までに変異することも多いことを考えますと、年に2回、接種することを考慮しても良いでしょう。

2. 肺炎球菌

対象: 65歳以上の方 プレベナー13およびニューモバックスをそれぞれ1回

このほかに、下記に該当する方は1回または2回
慢性疾患のある方(肺疾患、心臓病、腎臓病、肝臓病、糖尿病など)、免疫不全の方、人口内耳を装着している方、脳脊髄液漏のある方、無脾の方、脾臓に機能障害のある方

3. 子宮頸がん 3回(1回目後、1または2ヵ月後、6ヵ月後)

対象: 26歳までの女性

*従来のワクチンに加えて、さらに多くの遺伝子型をカバーしたガーダシル9が接種可能です(ガーダシル9は日本では今年の3月に製造販売が許可されました)。

4. Tdap(破傷風・ジフテリア・百日咳)ワクチン

対象: 妊娠中(16週から32週まで推奨、32週以後も可)の女性、妊娠するたびに1回

*母親に接種することで体内に抗体ができ、それが胎盤を通して胎児に伝わり、出生後も半年程度は赤ちゃんを守れることとなります。

*一般の成人で、破傷風の予防接種をする予定の方には、単独の破傷風ワクチンを接種する代わりに一度はTdapをお勧めします。日本では、単独の破傷風ワクチンは1952年に導入され、破傷風を含んだ3種混合ワクチンは1968年から小児の定期予防接種に組み入れられてはいますが、1968年以前に出生された方は、こうしたワクチンが接種されていない可能性があります。小児期に接種を受けた方でも破傷風のワクチンは10年に1回の追加接種が勧められています。また、10数年前から百日咳患者の中で大人の占める割合が増加し、今や患者さんの半数以上は大人となっています。

5. MMR(麻疹(はしか)、おたふく風邪、風疹)ワクチン 1回または必要に応じて2回(1ヶ月以上あけて2回)(接種後少なくとも2ヶ月は妊娠を避けてください)

対象: 以前に接種歴がなく、これらの病気にかかったことがない方

*これらの疾患には、概ね50歳ぐらい以上の方は罹患歴があると思われそうですが、それ以下の方は、かかったことがない方が多数いらっしゃると思われそうです。また、接種歴があっても1回の方には追加の接種をお勧めします。ちなみに、現在、日本では、おたふく風邪ワクチンの接種率が30~40%程度で、おたふく風邪患者は年に数十万人、難聴(治療困難)も数百人出ているとされています。日本は2015年に晴れて麻疹排除国に認定されましたが、その後、輸入例からの麻疹の流行が散発的に見られていることは皆さんもご存知のことと思います。風疹に関しては、先天性風疹症候群を発症した場合は生涯にわたり障害を抱えてしまうこととなります。ワクチンで予防していきましょう。

6. B型肝炎 3回(1回目後、1ヵ月後、6ヵ月後)

対象: 以前に接種歴がなく、この病気にかかったことがない方(3回接種しても抗体ができない場合が数%以上あり、年齢が高くなるほどこの傾向は高くなります。機会を見つけて抗体価を測ってみましょう)

*日本では1986年から、母子感染を予防するため、母親が感染者の場合に限り、出生児が予防接種を受けてきました。B型肝炎ウイルス保持者の多いシンガポールでは既に1987年から、日本では2016年から小児の定期予防接種に組み入れられました。成人で初感染すると重症化の危険、そして以前は少なかった持続感染するタイプのB型肝炎ウイルスが増えてきています。

7. 水疱瘡 1回または2回(1回目後、4~8週後)(接種後少なくとも2ヶ月は妊娠を避けてください)

対象: 以前に接種歴がなく、この病気にかかったことがない方

*接種歴が1回の方には追加1回の接種をお勧めします。

他にお勧めするワクチン

いくつかありますが、ここでは一つだけ挙げておきます。

帯状疱疹ワクチン 1回(追加接種に関しては今のところデータはありません)

対象: 50歳以上で水疱瘡にかかったことがある方

*以前に水疱瘡にかかったことがある方は、80歳までに3人に1人の方が帯状疱疹を発症するといわれています。帯状疱疹は、発症中の合併症のみならず、帯状疱疹後神経痛が難治性です。また、帯状疱疹発症中は、水疱瘡に免疫のない方に、水疱瘡ウイルスを感染させてしまう可能性があります。現在、概ね50歳以上の方々は、かつて水疱瘡にかかったことがあると思われそうですので、接種をお勧めいたします。50歳以上で接種可能です。ご希望の方は医療機関で御相談ください。